

コロナウィルス感染拡大前後における生活水準・子育て世帯の就業・世帯内分業の変化などについて量的／質的データの分析結果が報告された。テーマセッションは、日本家族社会学会が2019年1月～4月に実施した「全国家族調査 (NFRJ18)」およびその後続調査である「NFRJ18質的調査」の成果報告、そして育児ネットワークの構造と地域性に関する3つの部会があった。また、大会1日目の昼には、池岡義孝会長（早稲田大学）による日本家族社会学の定礎者である戸田貞三の戦前の研究軌跡をテーマとした会長講演も行われた。

2日目午後には、「『パブリック／プライベート』空間の重なりと家族・ワークライフバランス：『職住分離の不明瞭化』の影響を考えるために」と題する公開シンポジウムが開催された。①在宅勤務とワーク・ライフ・バランスの関連、②小規模家族経営（自営業）における女性の働き方から得られる示唆、③生活時間調査を用いた公的／私的領域の検討という分析視角から、新型コロナウイルスを契機とした在宅勤務・リモート・ワーク等の普及が職業・家族生活に及ぼす影響について議論が展開された。

当研究所からは、岩澤美帆（人口動向研究部・部長）、釜野さおり（同・室長）、藤間公太（社会保障応用分析研究部・室長）が部会司会を務め、「出生・少子化」部会にて守泉理恵（人口動向研究部・室長）と中村真理子（情報調査分析部・研究員）が、テーマセッションにて齊藤知洋（社会保障基礎理論研究部・研究員）がそれぞれ口頭報告を行った。（齊藤知洋 記）

「2021年度日本数理生物学会年会」2021年（宮崎大学主催 web 開催）

2021年9月13日～同年9月15日に宮崎大学主催で web 開催された「2021年度日本数理生物学会年会」に参加した。この会は筆者が所属する日本数理生物学会の年会である。昨年に引き続きコロナ禍のため、web による開催となった。普段この学会は数理モデルを中心とした生態学、人口学、疫学、進化論、また最近では分子生物学を対象とした生物学関連のテーマセッションが軒を連ねている。しかし、昨年からは世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症いわゆる covid-19への関心から感染症関連のテーマセッションが多く、研究者達の注目を集めていた。筆者は「繁殖価と最適生活史スケジュール問題」というタイトルで生活史の進化とその人口動態を制御理論の解説を交えて最新の研究結果を報告した。

個体群動態の方程式から制御方程式が導けるという内容だったが、関心を持って頂いた参加者から有意義な質問とご議論を頂くことが出来た。昨年からは懇親会が web で開催されるようになったが、ソフトウェアの環境や個々の web 環境の違いから参加申し込みの数に比べて、実際の参加者の数が少ないことが今年も確認された。Web 上において従来の学会と同様の雰囲気作りを行う為にはまだ多くの課題が残されていると感じた。一刻も早く新型コロナウイルス感染症の収束を願うばかりである。（大泉 嶺 記）

2021年日本地理学会秋季学術大会

2021年日本地理学会秋季学術大会は、地域地理科学会と共催で岡山大学をホスト校とし、オンライン形式で2021年9月18日（土）～9月20日（月）に開催された。以下に人口関係の発表タイトルを記す。17日には台風14号が史上初めて福岡県福津市付近に上陸し、通常の大規模大会形式であれば大きな混乱となるところであったが、オンライン形式により大きな影響もなく開かれた。人口関係の発表では参

加者数も50名を超えていたようである。

「東京都区部における人口密度分布の変化と特徴」……………草野邦明（群馬大学）

「東京圏内の人口移動」……………貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

（貴志匡博 記）